

# ノロウイルスの特徴と拡散防止

作成 2015年1月26日  
片山安心コンサルタント

## 1. 特徴

- ノロウイルスは、**とても小さい** → 大腸菌・ぶどう球菌の約 1/25 で  
ウイルスの大きさは 35-40nm(ナノメタ)
- 死ににくい** → 低温・凍結では死なない。  
乾燥しても 20 日以上生きている  
人が火傷する 60 ° C では死なない
- 体内で増殖する** → 人体の小腸や二枚貝の身に入って

## 2. とても小さい為に

- ① 手のしわ、指紋、爪と皮膚の**間に入り込み**移動する。
- ② 乾燥すると埃や塵と同じように舞いあがり、**長く漂って**(浮遊して)いる。

2-①により、接触感染と食品媒介感染・<sup>みずばいはいかんせん</sup>水媒介感染(食中毒)

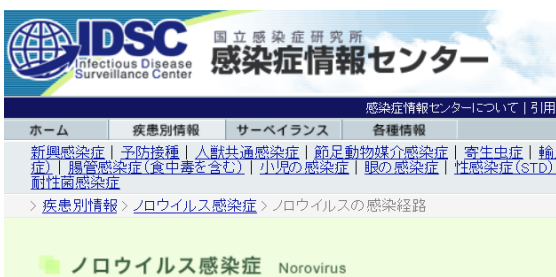
2-②により、<sup>ひまつ</sup>飛沫感染、<sup>じんあい</sup>塵埃感染

## 3. ノロウイルスを運ばない為に次の事をする

- a. 汚染源にならない為に、**手洗いを確実に**する
- b. **汚染部質の隔離**と汚染場所の**塩素消毒**と**高温加熱**(85-90 ° C で 90 秒)  
(次亜塩素酸ナトリウム消毒) (煮沸、スチームアイロン)

以上

## ノロウイルスの感染経路



### ■ノロウイルスの感染経路

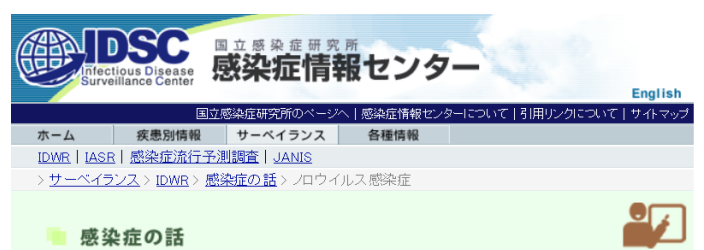
(感染症情報センター 2007/2/16)  
この記事のPDF

2006年12月、東京都豊島区のホテルでノロウイルス感染症が集団発生した。その際の感染経路の一つとして、「空気感染」という言葉がメディアをいよとする名所で用いられている。本稿では、ノロウイルスの感染経路に関してこれまでに得られている知見を整理し、この言葉が適切かどうかを考察した。

ウイルスや細菌などの病原体の感染経路は、アメリカ合衆国の疾病対策センター(CDC)が1996年に発出した「隔離予防策のためのガイドライン」に述べられている3つの感染経路が基本である。それは「接触感染」「飛沫感染」「空気感染」である。これ以外に、食品を介する感染、昆虫などの小動物が媒介する感染といった経路もある。

<http://idsc.nih.gov/jp/disease/norovirus/0702keiro.html>

## ノロウイルス感染症



### ■ノロウイルス感染症

ノロウイルス(Norovirus)は、電子顕微鏡で観察される形態学的分類でSRV(小型球形ウイルス)、あるいはノーウォーク様ウイルス("Norwalk-like viruses"という属名で呼ばれてきたウイルスである。2002年の夏、国際ウイルス命名委員会によってノロウイルスという正式名称が決定され、世界で統一されて用いられるようになった。

ノロウイルスはヒトに対して嘔吐、下痢などの急性胃腸炎症状を起こすが、多くは数日の経過で自然に回復する。季節的には秋口から春先に発症者が多くなる冬型の胃腸炎、食中毒の原因ウイルスとして知られている。ヒトへの感染経路は、主に経口感染(食品、糞口)である。感染者の糞便・吐物およびこれらに直接または間接的に汚染された物品類、そして食中毒としての食品類(汚染されたカキあるいはその他の二枚貝類の生、あるいは加熱不十分な調理での喫食、感染者によって汚染された食品の喫食、その他が感染源の代表的なものとしてあげられる。ヒトからヒトへの感染として、ノロウイルスが飛沫感染、あるいは比較的狭い空間などでの空気感染によって感染拡大したとの報告もある。この場合の空気感染とは、結核、麻疹、肺ペストのような広範な空気感染(飛沫核感染)ではないところから、埃とともに周辺に散らばるような塵埃感染という語の方が正確ではないかと考えている(<http://idsc.nih.gov/jp/disease/norovirus/0702keiro.html>)。

### 更新情報

- 2007年3月16日 改訂
- 2007年2月18日 改訂
- 2001年第8週を 更新

→ 疾患別情報へ

[http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k04/k04\\_11/k04\\_11.html](http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k04/k04_11/k04_11.html)